

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

平成29年10月3日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200088		
法人名	株式会社 宏和		
事業所名	グループホーム春日苑田尻		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡田尻町吉見384番地		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成29年11月6日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成29年8月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田尻町で唯一のグループホームである。  
関西国際空港の対岸に位置し、近年国際化の進むなかでも昔ながらの町並みや田畑の多く残る町であり、施設を取り巻く環境もそんな田園風景の中で静かで季節を感じられる高齢者様にとっては馴染みやすい環境となっている。  
建物は平屋建てで採光も多く採り明るく広々とした空間で、入居者様にはゆったりのびのびと、その人らしい生活を送ることが出来るよう支援していきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

南海本線吉見ノ里より徒歩5分程度のところに田園風景に囲まれた平屋の事業所が「グループホーム春日苑田尻」である。敷地は広く、地域の秋祭りにはやぐらが訪れ、利用者を楽しませてくれる。ユニット間にあるテラスは、利用者が日向ぼっこする為だけではなく、バーベキューや流しそうめんなどのイベント的な活用もでき、楽しみながら食事することができる。年に1度開催される「家族会」でもテラスを活用し食事会を開き、家族間の交流を図っている。  
田尻町に在住の職員がおり、地域の行事など利用者で共通の話題が多く、利用者との会話が弾む一因となっている。  
職員が手作りの食事を提供しており、利用者も能力に応じてできる範囲で手伝っている。また家庭的な環境を大切にするため、調理の際の音や匂いを感じれるようにしている。花見や外食行事、町内のドライブや家族の協力による買い物や墓参りなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。  
畳敷きの居室を選択できるようにして、コタツを置くなど、できる限り自宅と同じ居室環境で過ごせるよう配慮している。  
利用者の日頃の健康管理のほか、急変時や重度化・終末期の対応に備え、24時間連携が取れる医療機関と提携している。災害対策として、事業所は田尻町から福祉避難所としての指定を受けており地域の備蓄品を保管している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の立場に立ち、一人ひとりを尊重し、地域との交流を図りながら家庭的な環境で暮らして頂くという事業所の理念を職員間で共有し、サービスの質の向上に努めている。	「プライバシーを守り一人ひとりを尊重します」「利用者の立場に常に身をおいて考えます」「家庭的な環境づくりを心がけます」「地域との交流を図ります」の事業所理念を各ユニットの台所に掲示している。朝礼やカンファレンスで理念について話し合い、日々のケアの中で理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護相談員や民生委員の方々が定期的に来られている。また秋祭りの参加や認知症カフェにも足を運び、地域の方々との交流を図っている。	利用者は職員と共に、認知症カフェや将棋サロンに参加し、地域の人々と交流を図っている。自治会に参加しており、秋祭りでは、やぐらが事業所の敷地内を訪れ、近くで見物することができる。3か月毎に介護相談員や民生委員の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	田尻町徘徊高齢者等SOSネットワーク事業協力機関に登録している。田尻町と災害時の福祉避難所の協定を締結している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や行事報告、事業計画などの取り組み状況を説明し意見交換を行いサービスの質の向上に活かしていくようにしている。	運営推進会議は年6回不定期に開催しており、家族、地区連合会会長、老人会会長、民生委員、婦人会会長、地域包括支援センター職員等と事業所職員が出席し議事録を残している。地域での行事の情報や行事写真の取り扱い、看取り介護や認知症の症状について話し合いサービスが向上できるように取り組んでいる。	運営推進会議を年6回は開催しているが、2か月毎など定期的開催することが望ましい。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町担当者とは日頃から連絡を取り合っており事業所の実情等は理解して下さっており事業に関する問い合わせ等もすぐに対応し協力頂いている。</p>	<p>改正された法令や運営に関することを、町役場の担当者に相談したり、事業所での困難事例や空室の情報を共有するなどの協力関係を築いている。また、福祉避難所として行政と協定しており、別棟に地域の備蓄品を保管している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用契約書第6条3の項目において、身体拘束および行動の制限をしない旨を記載しており職員にも周知、理解させケアに取り組む。玄関の施錠については夜間帯以外は常時開錠している。</p>	<p>玄関は日中開錠しており夜間のみ施錠している。帰宅願望のある利用者には職員と一緒に自宅まで歩いたり、暑い季節には車で町内をドライブするなど抑圧しないケアに努めている。管理者は朝礼時に時事ニュースを取り上げて指導する事や日々のケアの中で身体拘束について指導しているが、定期的な勉強会や研修への参加などは実施できていない。</p>	<p>職員間での共有認識を持って日々のケアに活かせるよう、身体拘束に関する勉強会の開催や研修の参加ができる体制作りを期待する。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する研修等で学ぶ機会をつくり、職員間で常に意識しながら虐待の無い施設を目指している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域の人権協会が開催する講演会等に参加することで知識を習得し、必要とされる方においては制度が活用出来るサポートを行っていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書については契約時に内容を十分に説明し質疑応答を行ったうえで納得頂いてから承諾印を頂いている。</p>		

10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に御意見箱を設置し、いつでも投函出来るようにしているが、利用は少ない状況である。家族会では個別面談を行い意見や要望をお聞きし、また面会時などにも意見を頂戴するようコミュニケーションをとる。	普段の面会時に家族から意見等を聴き取っている。年に1度、イベントを兼ねて「家族会」を開催し、食事をしながら家族間の交流を図っている。その際に、担当職員は家族からアンケート調査したり、意見や要望を聴き取っている。ケアに関する内容が多く、日々のケアに反映できるように、職員間で情報を共有している。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	意見や提案はいつでも聞ける環境をつくり、また会議などを通して自由に意見や提案を行い反映していけるよう検討する。	管理者は日頃から気軽に話し易い雰囲気をつくることに努め、職員からの意見を聴き取っている。物品の購入やケアの方法などの業務に関する意見や、コスト削減などの提案があり、運営に反映できるように努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事内容や成果、勤務状況を把握し自己評価なども考慮しながらベースアップに反映していくことでやりがいや向上心が継続できるよう職場環境、条件を整えていく。	/	/
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得の奨励や研修の機会をつくと共にOJTによりスキルアップが図れるよう努める。	/	/
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しており、定例会や研修会で知識を高め、意見交換や情報の収集を図る。	/	/

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人様の不安や要望に傾聴し、意向を尊重していくことで信頼関係を築いていくよう努める。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族様等からの不安や施設での本人様の生活の意向をお聞きし、本人様の立場に立ったケアを提案していくことで信頼関係を築いていく。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス開始に至るまでにアセスメントを充分に行い、ニーズの優先性を見極め、他のサービスも含めた支援を考えていく。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常に利用者様の立場に立つという運営理念に基づき、本人様の思いや訴えに傾聴しADL等も考慮しながら、必要な援助を受け自らの力で共に生活をしているという実感を持って頂けるよう努める。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様の施設での生活ぶり、過去の生活歴等の情報を共有し合い家族様からも意見を頂く事で本人様との絆を大切にしながら共に支えていく。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事やドライブ、家族様の支援などで馴染みの場所へ出かける事で関係が途切れないよう支援し、また施設にもいつでも知人の方が面会に来られるよう環境を整えている。	ふれ愛センターや春日神社へ出掛けたり、町内のドライブで、馴染みの場所との関わりが持てるように支援している。町内のドライブでは利用者の昔の出来事を聴く、良い機会となっている。また、家族と一緒にカラオケや馴染みの美容院、墓参りに出掛け地域との繋がりを継続している。これまでの生活歴等は利用者や家族から聴き取り、職員間で情報を共有している。面会時間は規制せず、家族や知人の訪問は自由である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係性を把握し、孤立したりトラブルの無いように関わっていくよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時において次に生活される場所の担当者に詳しい情報提供を行い、本人様や家族様にとっての安堵の場となるよう努める。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で本人様の希望や思いをくみ取り生活に反映していく。また疎通が困難な方においても利用者様本位に考え、少しでも希望に近づいたケアを行えるよう努める。	職員は、日頃の利用者との会話などから思いや意向を聴き取れるように努めている。カンファレンスを通じて、職員間で情報の共有を図り支援に繋げている。意思疎通が困難な利用者には声掛けやケアの仕方などに対する表情や仕草などから意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人様とのコミュニケーションや家族様から情報収集を行い、一人ひとりに合わせた生活環境、ケアを提供できるよう努める。		

25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課や日々の心身状態、有する力の把握に努め、必要なケアを行なっていく。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員と本人様、家族様、必要であれば医師の意見等も聞きながら本人様がより良く暮らすための課題を分析し介護計画を作成していく。	介護計画は6ヵ月毎にモニタリングし、状態の変化等があれば、その都度見直している。サービス担当者会議には計画作成担当者や介護職員が参加し意見交換を行っている。家族や医療関係者の参加は無く、事前に聴き取った意向や意見などを計画書に反映している。	介護計画書の見直しによる家族等との話し合いの場や、サービス担当者会議参加の呼びかけができる事を期待する。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子や気づき、ケア等は個別記録に記入しており申し送りにおいて職員間で情報を共有し、ケアカンファレンスや都度のミーティングによってケアのやり方や介護計画の見直しを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況によりその時々で生まれるニーズには出来るだけ柔軟に対応し支援していく。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や民生委員の方々が定期的に来られ利用者様の相談相手を担って下さっている。また秋祭りや認知症カフェにも足を運び、地域資源を活用し豊かな暮らしが出来るよう努めている。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の契約医療機関の医師を主治医にされている利用者様と他の医療機関をかかりつけ医にされている利用者様が居られるが、両者ともにおいて受診時には健康状態を報告し指示を受けている。緊急時の医療連携として利用者様全員、月2回往診により健康管理を実施している。</p>	<p>入居前のかかりつけ医を継続して利用している利用者も、契約医療機関の往診を受けており、緊急時や24時間の連携体制を整えている。また、通院は基本的に家族であるが、家族が行けない場合は職員が付き添っている。薬の内容や状態に変化があった場合は、家族へ連絡を行っている。受診内容は受診記録ノートや申し送りノートに記載し、職員間で共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>施設の看護職員や契約医療機関の看護師に相談し適切な助言を頂き支援している。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院医療機関の主治医やソーシャルワーカーより、情報を頂き受け入れ時の対応などを相談しながら出来るだけ早期に退院できるよう努めている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所の取り組み方針を定め、看取りケアを希望される利用者様及び家族様に対しては承諾書を頂いている。ケアを行なうにあたって医療、本人様、家族様、事業所で十分に話し合い方針を共有する。</p>	<p>入居時には「入居利用者の重度化における対応に関する指針」や「看取りに関する指針」を文書化しており、入居時に利用者とその家族に説明し、同意を得ている。 重度化や終末期を迎えることとなった場合は、医療関係者や家族や職員で十分話し合い、「看取り介護についての同意書」を得ている。今まで2名を看取っている。</p>	



34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には対応出来るようマニュアルを周知させる。また防火訓練の過程において心肺蘇生など講習を開いて頂く機会を設けるようにする。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回の田尻町防災訓練に参加し、福祉避難所にもなっている。また夜間を想定し夜勤者のみの避難訓練を実施する。	災害対策として、毎年3月に夜間想定で消防訓練を行い、10月には田尻町防災訓練の為にあらゆる災害を想定し、消防署の協力の元実施している。備蓄品については飲料水、非常食を3日分の用意が有り消費期限なども厳重にチェックしている。	災害時に地域の協力が得られるように、運営推進会議等を通じて、地域との協力体制を構築することを期待する。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保ともに事業所の理念に掲げて実践しており、接遇面に関しても会議の場や朝礼等、随時伝え徹底していくよう努める。	プライバシーに関するマニュアル及び接遇に関するマニュアルは各ユニットに配置している。徹底できない職員に関しては管理者、職員を問わずその都度注意をしている。	マニュアルを活用し、勉強会や研修の機会が持てるような体制作りを期待する。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で本人様の思いや意思を把握し自己決定の支援を行っていく。また自己決定の困難な利用者様においても表情など観察出来るだけ考慮していく。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の心情や体調を把握し一人ひとりのペースに合わせたケアを提供することで出来るだけ希望に沿った生活が出来るよう支援していく。		

39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その季節に合った好みの衣服を職員と一緒に選んだり勧めたりしている。意思表示が困難な入居者様においては偏った服装にならないよう考慮している。また定期的に訪問美容院に依頼し髪型を整えて頂く。</p>		
40	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様それぞれの能力に合わせた食事形態、分量で提供している。時々ではあるが外食支援を行い入居者様自身で好みの食事を選んで頂き、また施設でも選択メニューの日などを設けている。こすもすユニットにおいてはパン食の苦手な方、また小麦粉アレルギーの方も居られ個別対応を行っている。盛り付けやトレーを並べて頂く等の食事準備、食器洗い等の後片付けは利用者様のその日の気分等観察しながら一緒に行うようにしている。</p>	<p>献立は本社で作成し、事業所での献立の変更はできない。ただし、パスタや麺類については、ソース等の味付けを利用者の好みに応じて自由に選択できる。年に2回は、近くのスーパーマーケットのフードコートへ外食に行っている。また、夏には季節を感じられるようにテラスで流しそうめんを行っている。食事は手づくりでこだわり、家庭的な雰囲気大切にしている。 利用者と職員は同じテーブルで会話をしながら食事をしている。利用者は簡単な調理や配膳下膳、食器洗いなど職員と一緒にしている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食事ごとに食事量、また随時水分摂取量をチェックし個々にその日のバランスを確認している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、入居者様の能力に応じた口腔ケアを行って頂いている。また月に二回、歯科医師と歯科衛生士による口腔ケアを実施している。</p>		

43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表により入居様それぞれの排泄パターンを把握していくことでタイミングの良いトイレ誘導、声掛けを行い出来るだけ失敗を減らし、トイレで排泄できるよう勧めていく。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、気分良く過ごせるように支援している。夜間、紙オムツを使用する利用者に対しては2時間ごとに交換を行っている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>適度な運動の働きかけ、水分量の確保が出来るよう声かけし、食事については毎朝のヨーグルトや野菜類の提供を行っている。場合によっては看護師や医師と相談し薬剤での排泄の促しを行う。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的に入浴日や入浴時間は大まかに決まっているが希望があれば柔軟に対応する。こすもすユニットでは全介助で座位の維持も困難な利用者様が居られ安全のため二人介助でシャワー浴を行っている。しかし、夜間においては職員の体制が手薄になることから安全面の確保が出来ないため困難ではある。</p>	<p>入浴は週に3日火曜、木曜、土曜と基本決まっているが、利用者の心身状況を考慮し、時間や曜日の変更は柔軟に対応している。基本的に同性介助であるが、男性職員が少ないの為に、男性の利用者については了承のうえ女性介助となることがある。座位が困難な利用者は、シャワーキャリーを利用し2人で介助し、シャワー浴をしている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者様の生活習慣を把握し、その時々で本人様の意思を確認し自由に休息したり就寝して頂いている。日中も長時間休もうとされる方に関しては生活にメリハリをつけて頂く為に声掛けはさせて頂いている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬事説明書は各ユニットに置き、随時確認出来るようにしている。服薬においての効果、症状の変化を確認し、服薬変更時には特に気を付けて様子観察を行う。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中で個々の能力に応じた役割を無理の無い程度で担っていくことで生活に張り合いを持って頂けるよう努める。気分転換のドライブ、季節ごとの行事など生活を楽しくして頂けるよう心がけている。</p>			
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>勤務体制によってはその都度には希望にそえないことがあるが、出来る範囲で時間を設け外出支援が行えるよう心がける。また本人様の希望を伝える事で家族様の協力により週末に出かけられたり定期的に外出されている入居者様もおられる。特にこずもすユニットでは家族様が毎週末お迎えに来られ趣味のカラオケやショッピングに出かけられる入居者様も居られる。</p>	<p>敷地が広くユニット間の共用部分に大きく開放的なテラスがあり、多くの利用者が気分転換できるように日中はテラスを開放し、自由にテラスに出られるようにしている。また、食材の買い出しに行く際は、利用者と一緒に車で出掛けている。町内のドライブは車いすの利用者も参加ができ、季節感を感じたり、馴染みの景色を眺めて楽しめるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>こずもすユニットでは財布を持参し本人様で管理されている方も居られるが、その方の能力やトラブル等も考慮しながら希望があれば自己管理出来るよう支援を行っていく。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の使用は希望されれば行って頂いており、また家族様からの電話も取り次いでいる。遠方のご家族様と手紙のやり取りをされている方も数名居られる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>普段過ごされる食堂ホールや居間、廊下などは天井も高く採光も十分に取られ開放感のある空間となっている。壁には季節ごとの壁飾り等を飾り季節感を感じて頂く。事業所の理念にも掲げているように家庭的な雰囲気づくりを心がけ利用者様にとって居心地の良い環境づくりを心がける。</p>	<p>廊下の壁などは季節に応じた飾り付けが施され、四季を感じられるように工夫している。事業所は、静かな、落ち着いた環境で過ごして欲しいという思いを持って支援に取り組んでいる。利用者同士もとても仲が良くトラブルなく過ごしている。</p>	

53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファが利用者様同士の憩いの場であったり、独りでゆっくりと過ごせるスペースとなっている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	能力、安全面も考慮しながら本人様、家族様と相談し馴染みの家具や好みの物を持ち込んで頂くことにより本人様らしい居心地の良い居室空間を協力しながら作っていく。	エアコンと防災カーテンは備え付けてあり、残りは全て個人の持ち込みの物となっている。ベッドの配置は、事業所、利用者本人、家族との話し合いで決め、それ以外は本人、家族に任せプライベート空間を大事にしている。畳敷きの部屋もあり、入居時に自由に選択できる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー構造となりトイレや廊下、浴室等には手すりを設置、また職員の見守りも行いながら利用者様個々に応じた安全で自立した生活が送れるよう努める。		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない